街道を歩く

東海道：07藤川西ー岡崎ー矢作橋

[弥次・喜多]茶屋にて女郎買衆を　みて
”三味線の駒にうち乗り帰るなり
岡崎じょろうしゅ買いに来ぬれば”

大林寺境内の弘忠他墓

大林寺（浄土宗）
明応2年(1493)岡崎城主松平信貞が乙川南岸明大寺の地に創建浄土宗深草派の寺院、享禄3年(1530)松平清康の命により現在地に移る
清康、夫人春姫、弘忠(家康の父)の遺品を納めた墓がある。また以前岡崎城主であった西郷頼嗣、松平信貞の墓もある

矢作橋
現在より200m下流
寛永11年(1634)初め
板橋ができる
長さ208間で今より
100m長かったとか

岡崎宿　（池鯉鮒宿へ3里29町22間）
城下町、宿場町、矢矧川の水運の基地として商業が盛んな町として賑わった。又鍛冶屋、大工、桶屋などが多く職人の町でもあった。
天正18年(1590)田中吉政が岡崎に入城し、乙川の南を通っていた街道を城下に引き入れたその際城の防備から曲折の多い道とした。いわゆる岡崎27曲で36町に及ぶ往還の両側には19の町があり岡崎町廻り(城下町廻り)といわれた。宿の重要な問屋場は慶長6年(1601)宿制当初は現祐金町辺りであった。が手狭になったので今の伝馬町に移された。伝馬町だけでは宿維持が出来ず、城下町全体で分担する。”惣伝馬制”がとられれた。町並みは36町51間、天保年間(1830-43)では本陣、脇本陣各３、旅籠１１２

岡崎城　（別名龍ヶ城）
三河守護代西郷稠頼が康正元年(1455)築城といわれ当時稠頼の城は乙川の南岸にありここ龍頭山に砦を築いた。本格的な築城は安祥から岡崎に移った松平清康(家康の祖父)で享禄3年(1530)頃と云われる.
一時今川の拠点となったが桶狭間合戦後松平の居城となった。家康関東に移封後秀吉の家臣田中吉政が入城、城郭の拡張整備を行った。
江戸幕府なってからは家康生誕の地として譜代大名が配置される。石高は5万石程度であったが駿府に次ぐ賑わいであったとか。現在の城は昭和34年復元される
城内には家康産湯の井戸、胞衣塚、舟着きの御用土場など残る。

六所神社
祭神猿田彦命他１３神
7世紀中頃斎明天皇の勅願により松平初代親氏が加茂郡の六所山に奥州塩釜の六所大明神を勧請したのが始まり、現在地に勧請したのは定かでなが7代清康が安祥から岡崎に移った頃とされる。慶長9年(1604)家康が社殿造営、寛永年間(1634-6)に家光が再興。本殿、幣殿、拝殿複合の権現造り、楼門、神供所などいずれも国重文

龍海院（曹洞宗）
別名”是の寺”清康が(是)天下をとることを夢見て創建。酒井雅楽助家の菩提寺
家康の継母真喜姫(田原御前)の墓がある。

本宗寺　（真宗）
山号”土呂殿”の示すとおり元は福岡町土呂にあった。応仁2年(1468)蓮如上人の三河布教の拠点として創建される
永禄6年(1563)の三河一向一揆で反松平の拠点となり焼失、取壊しの悲運にあう
天正11年(1583)家康の赦免を受け現在地に再興。境内には再興に尽くした妙西尼(家康の叔母)、石川数正の墓がある。

”草の葉を落るより
飛ぶ蛍かな”

大岡越前守忠助邸跡
寛延元年(1748)碧海郡下の加増で大名になった時陣屋を置く
白壁黒塗門と崇敬した稲荷社が残る

[弥次・喜多]
大平川近くで
”岸に生ふ葦のあをみに
小鴨まで水にひたれる
大平の川